

氏名(本籍地)	塩原 明世(長野県)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	博甲第53号		
学位授与年月日	平成22年3月16日		
学位授与の要件	昭和女子大学学位規則第5条第1項該当		
論文題目	メタボリックシンドロームのリスクファクターに関する 栄養学的研究		
論文審査委員	(主査)	昭和女子大学教授	渡辺 満利子
	(副査)	昭和女子大学特任教授	木村 修一
		昭和女子大学教授	松本 孝
		昭和女子大学教授	戸谷 誠之
		元東邦大学医学部主任教授	豊川 裕之

## 論文審査結果の要旨

本論文から得られた成果に対する論文審査内容及び評価は以下の通りである。

わが国において、健診受診者を対象とした長期間の栄養教育効果の評価に関する報告は殆ど見当たらない。近年その重要性がわが国でも漸く評価され、国策としての特定健診・特定保健指導が導入され、推進されようとしている。しかし、その成果は未知数である。

MetS 予防、改善を効果的に進めるには、年齢・BMI レベルでの MetS 発症リスク要因の存在状況や課題を抽出し、その課題にフォーカスした効果的栄養教育プログラムの構築が希求されており、公衆栄養分野の課題として、その重要性は一層増している。このような背景のもと、本論文において、5年間の継続的健診受診と継続的栄養教育の介入効果の有効性を実証できたことは、新知見に値すると判定した。加えて、MetS 発症リスク要因の存在は、40歳未満群においても、40歳以上群と同程度存在することや、BMI が  $24 \leq \text{BMI} < 25$  のレベルを境に、LDL 粒子サイズの微小化に伴うインスリン抵抗性の進展を HDL/TG 値を用いて、明示することができた。これらの知見も MetS 発症予防の観点から意義ある研究結果として、評価できよう。

しかし、いくつかの課題も残した。

本論3の特定保健指導における栄養教育用のツール開発は、対象個々の条件や食事全体を見据えたツールという観点からは不足しており、より十分な検討が望まれる。また、栄養教育プログラムの検証はより妥当性の高い研究デザインに基づく研究成果に期待する。

本論文は、当該研究者が MetS 発症の根底にあるインスリン抵抗性により惹き起される高血

糖下での脂質代謝が動脈壁に与える影響に着目し、糖尿病ラットを用い血管障害の成因とメカニズムに関する研究成果を修士論文として報告したことに端を発している。その後、管理栄養士として、生活習慣病の予防・改善のための栄養教育に取り組み、長期に及ぶ調査研究を通して得られた結果である。分析に用いられた統計的手法も正当でかつ適正なものであって、研究者としての資質・能力を備えており、今後の研究成果も期待できる。

研究の先見性と採用した手法による研究目的に対する妥当な結果は、博士論文に十分値するものと審査員一同が判断した。